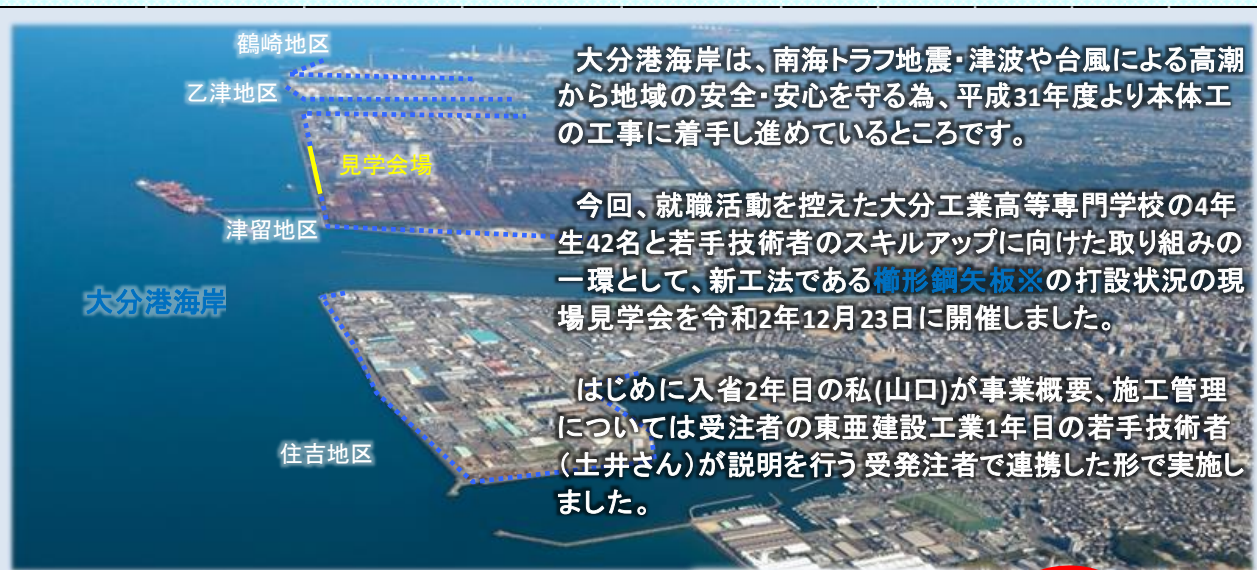
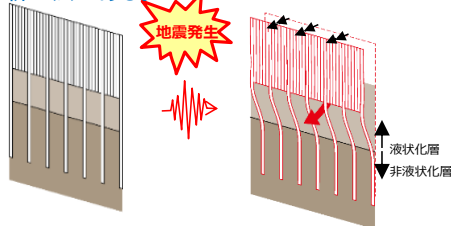


別府港湾・空港整備事務所通信

将来を担う大分高専4年生と若手技術者による現場見学会 in大分港海岸 新工法「楡形鋼矢板工法」



※楡形鋼矢板工法は、液状化現象が発生した場合でも所定の護岸機能が確保できる設計で長尺矢板と短尺矢板を組み合わせた新工法である。



山口: 国土交通省では、大分港海岸(鶴崎地区・乙津地区・津留地区・住吉地区)の護岸の全延長約21kmの整備を進めています。

楡形鋼矢板の大きな特徴としては、短尺と長尺を交互に組み合わせた髪の毛をとかす櫛のような構造になっているところです。交互に矢板を組み合わせることで、すき間から土圧を逃がすことができ護岸の変形を抑制することができます。

土井
さん

土井:こちらの現場では、圧入機を用いて矢板を打設しています
使用している鋼矢板は「ハット形鋼矢板」です。楕円鋼矢板工法
では特に矢板の鉛直度と通りの管理が重要となります。

▼圧入状況



東亜建設工業(株)

学生:どのようなところが大変ですか。



▼最後はみんなで記念撮影!!!

土井:精度管理が大変です。自分のミスが現場全体のミ
スになってしまうので毎日気をつけて行っています。

学生:職場では実際どのよう
な仕事をしていますか。



山口:設計に必要な土質調査や測量業務の
発注や安全パトロール、調整先との打合せに
臨席するなど今は勉強の毎日です。

○今回の現場見学会を通しての気づき

- ・実際に現場を見学してもらうことで、詳しい施工状況や施工管理といった内容を伝えることができた。
- ・発注者と受注者が協力して行うことで、プロジェクトの完成までの全体像とあわせ、建設業の魅力を伝えることができたと期待。(土井さんより)

○感想

昨年度も概要説明を行って来ましたが、今回は現場で概要説明を行うということで手持ちの資料もな
い中いかにわかりやすく伝えられるのかということで苦労しました。今回は高専の4年生ということもあり少
し専門的なことも話しましたがうまく伝わったかどうかは正直不安なところではあります。
今後もこういった現場での概要説明があると思いますので何も使わずにわかりやすく、どのように説明
したら理解しやすいかを考えて行きたいと思っています。参加していただいた高専の皆さんには是非国交省
に入省してきていただきたいと思っています。